取扱説明書

統合管理ソフト・パワソル
Power-SOL

UPS モニタ for Windows
ユーザーズ・ガイド【インストール編】

富士電機株式会社
DO094-04-01E

安全にお使いいただくために

●製品を使用する前に、必ずこのマニュアルをお読みください。
●注意事項を守って製品をご使用ください。
●このマニュアルは、必要なときすぐに参照できるよう、お手元に保管してください。

表記について

本書では、本ソフトウェアを安全に正しくお使いいただき、お客様への危害や財産への損害を未然に防止するために、次の絵表示を使用しています。**これらの絵表示の個所は必ずお読みください。**

●安全性に関する事項

	危険	指示を守らないと、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定されることを示します。
	警告	指示を守らないと、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
	注意	指示を守らないと、人が傷害を負う可能性または物的被害のみが想定されることを示します。

●安全のために

	注意事項	安全のために、その行為を強制することを示しています。

2011 年 8 月 第 19 版

⑴本ソフトウェアおよび、本書の内容の一部または全部を弊社に無断で転載、複製、改変する事は禁止されています。

⑵本書に記載されている各社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

⑶本ソフトウェアを使用した事によってシステムや機器に万一トラブルや故障が発生しても、弊社は原因の如何に関わらず一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

⑷本ソフトウェアの仕様および本書に記載されている事柄は、将来予告無しに変更する事があります。

⑸商品の内容については万全を期していますが、ご不審の点や誤り、本書の記載漏れなどお気づきの点がありましたら、弊社までご連絡ください。

⑹本ソフトウェアの CD-ROM 内には、本書記載以外の OS 対応版も同梱されています。本書記載以外の OS 対応版をご使用になる場合は、その OS 対応版の取扱説明書をご覧ください。

Copyright(C) Fuji Electric Co.,Ltd. All Rights Reserved.

UPS モニタ ユーザーズ・ガイド【インストール編】

目次

インストール編 1
UPSモニタのモジュールの種類 1
インストール前の確認事項 2
コンピュータとUPSの接続(UPSモニタ(コントローラ)または、UPSモニタ(非ネットワーク)使用時) 3
UPSモニタのインストール 4
UPSモニタ(コントローラ)のインストール 6
UPSモニタ(メンバ)のインストール 11
UPSモニタ(非ネットワーク)のインストール 17
インストールの中止 20
UPSモニタを接点方式インタフェースUPSで使用する場合 21
インストール後の動作確認 22
UPSモニタのアンインストール 23
UPSモニタのアップデート 27

インストール編

UPSモニタのモジュールの種類

UPS モニタには、以下の 3 種類のモジュールがあります。それぞれ機能に違いがありますので、UPS モニタをインストールする前に良く読んで理解される事をおすすめします。

1) UPS モニタ(コントローラ)

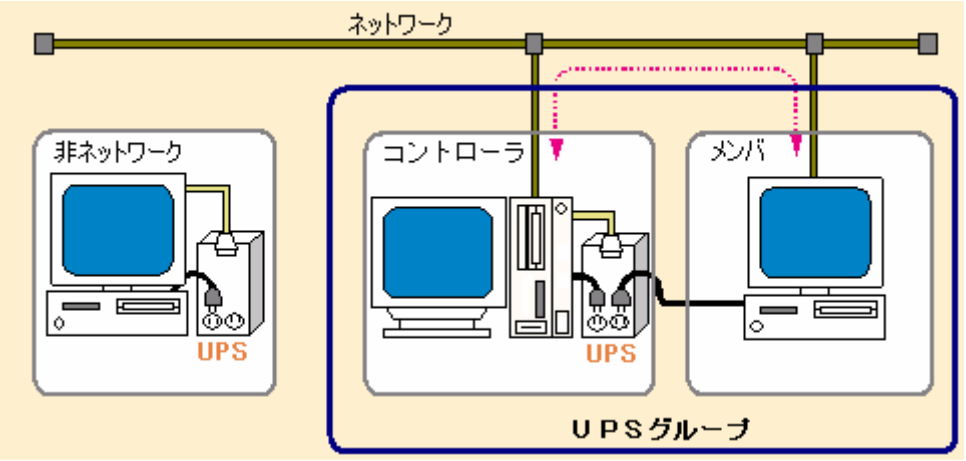
ローカルエリアネットワーク(LAN)に接続されるコンピュータで、UPS と専用通信ケーブルを接続して使用する場合に、このモジュールを使用します。
また、1 台の UPS に 2 台以上のコンピュータを接続して UPS グループのコントローラとして使用する場合にも、このモジュールを使用します。
(UPS グループの詳しい説明は、**概要編「UPS グループ」**を参照してください)

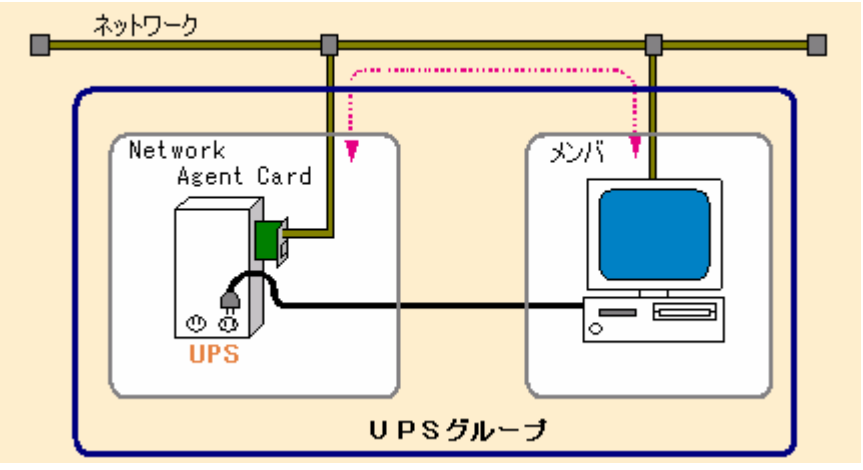
2) UPS モニタ(メンバ)

ローカルエリアネットワーク(LAN)に接続されるコンピュータで、UPS と専用通信ケーブルで接続せず、UPS グループのメンバとして UPS モニタ(コントローラ)または Network Agent Card と通信する場合にこのモジュールを使用します。
(UPS グループの詳しい説明は、**概要編「UPS グループ」**を参照してください)

3) UPS モニタ(非ネットワーク)

ローカルエリアネットワーク(LAN)に接続しないコンピュータで、UPS と専用通信ケーブルを接続して使用する場合に、このモジュールを使用します。





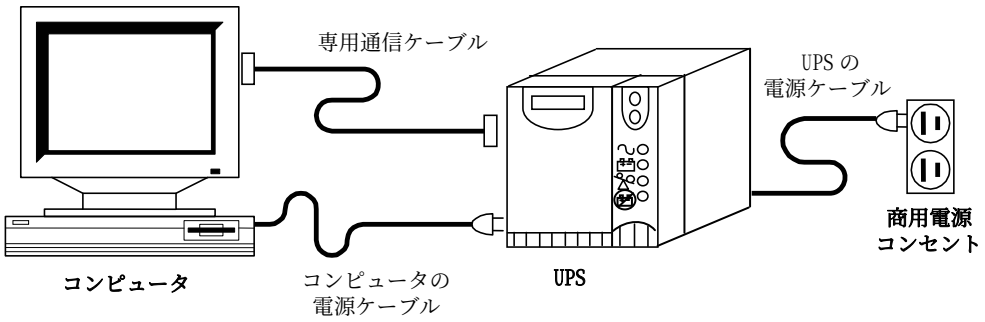
インストール前の確認事項

UPS モニタをインストールする前に、以下の情報を確認してください。
最新版へアップデートする場合は、「**UPS モニタのアップデート**」の項を参照してください。
初期インストールの場合は、以下の項目を確認し、「**UPS モニタのインストール**」の項を参照してください。

■確認項目

1) ご使用になる UPS の製造会社名と機種名
2) 専用通信ケーブルで UPS と接続するシリアルポート番号
3) UPS モニタ(コントローラ)または UPS モニタ(メンバ)をインストールする場合
   ・TCP/IP の設定
4) UPS モニタ(メンバ)をインストールする場合
   ・UPS モニタ(コントローラ)の IP アドレス、または、コンピュータ名(ホスト名)
   ・Network Agent Card の IP アドレス

コンピュータとUPSの接続(UPSモニタ(コントローラ)または、UPSモニタ(非ネットワーク)使用時)

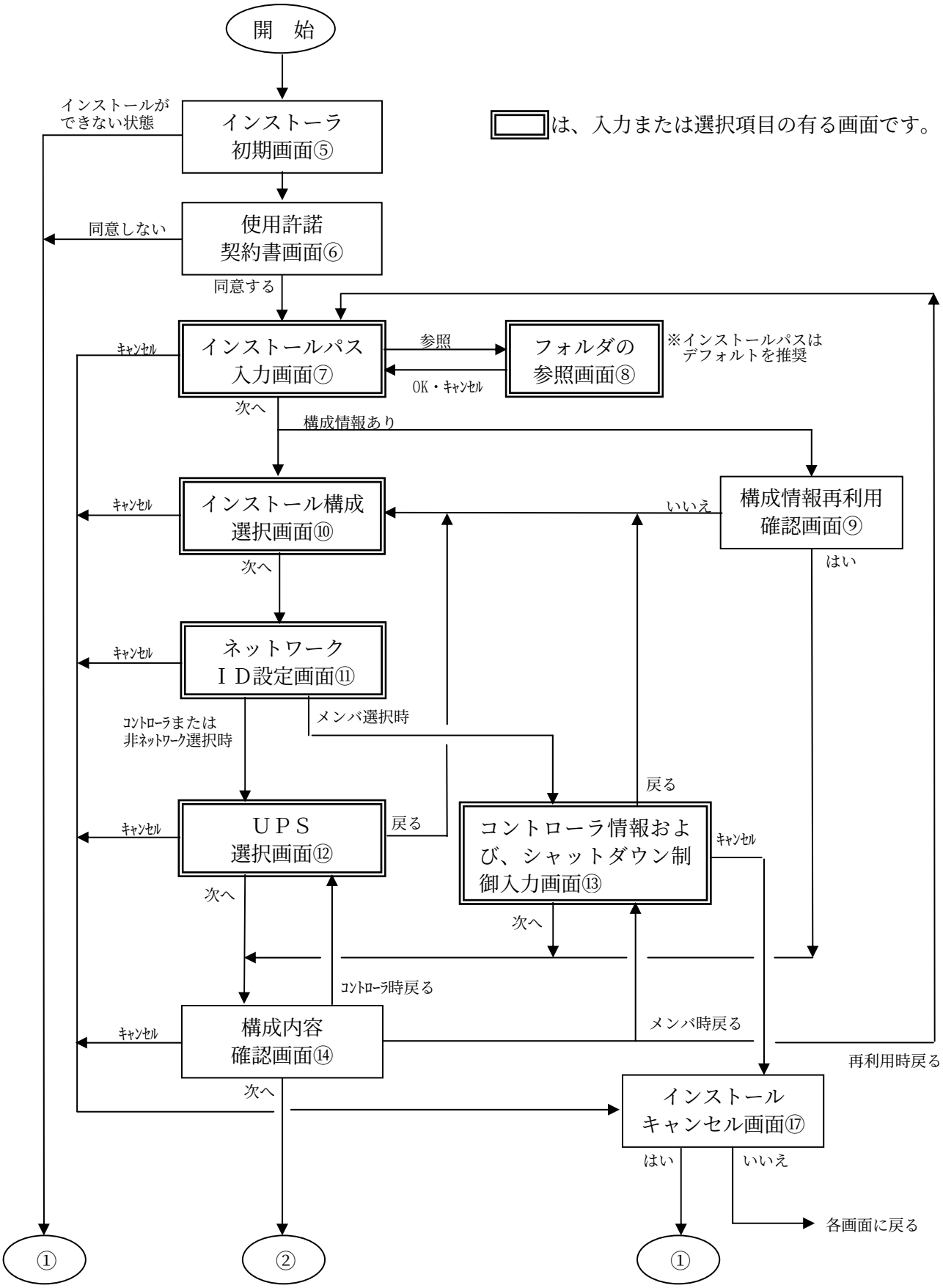


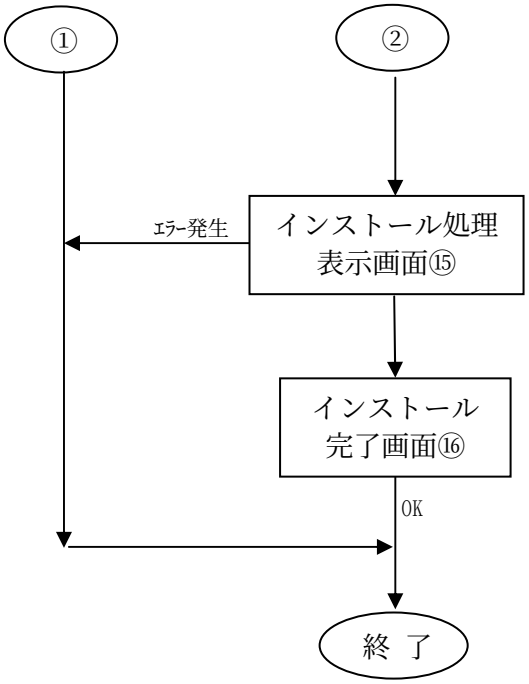
① コンピュータの電源が OFF になっている事を確認します。
② 添付されている専用通信ケーブルの D-Sub9 ピンのオス側を UPS 背面にあるシリアルポート(COMM.PORT)に接続します。
③ 専用通信ケーブルの D-Sub9 ピンのメス側をコンピュータのシリアルポート(COM1～COM4 のいずれか１つ)に接続します。
④ コンピュータの電源ケーブルを、UPS 背面にあるコンセントの１つに接続します。
⑤ UPS の電源ケーブルを商用電源コンセントに差し込みます。
⑥ UPS の ON ボタンを押します。

注意事項
※コンピュータと UPS を接続するケーブルは、UPS に添付されている専用ケーブルまたは製造元が指定する専用ケーブルを使用してください。指定された以外の市販のケーブルなどを使用すると UPS やコンピュータを破損する可能性がありますので、絶対に使用しないでください。
※Network Agent Card をご使用になる場合は、Network Agent Card の取扱説明書をご参照ください。

UPSモニタのインストール

UPS モニタのインストールは下図の流れに従い、操作します。





UPS モニタをインストールする前に、システム構成を決定してください。
システム構成が決定したら、インストール編「UPSモニタのモジュールの種類」を良く読み、
インストールするモジュールの種類を決定してください。

UPSモニタ(コントローラ)のインストール

①**インストール編「コンピュータと UPS の接続」**の手順通りにコンピュータと UPS が接続されている事を確認し、UPS の電源を ON にします。

②コンピュータの電源を ON にして OS を起動し、ログオンします。
(ログオンダイアログボックスが表示されない場合には必要ありません。)
Administrator か同等の権利を持ったアカウントでログオンしてください。
プラグアンドプレイ対応 UPS により新しいハードウェアの検出が行なわれた場合については、
付録編「付録 A トラブルシューティング」を参照してください。

③CD-R または、ダウンロードした自己解凍書庫を解凍した場合は、自動的にインストーラが起動しますので、⑤に進んでください。解凍したフォルダから実行する場合は、Windows の「スタート」ボタンを選択して「ファイル名を指定して実行…」を選択します。
(Windows Vista/Server 2008/Windows 7 の場合、「スタート」－「全てのプログラム」－「アクセサリ」－「ファイル名を指定して実行」を選択します。)

④「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。

「名前」の指定を以下の様にします。
[インストーラ格納ドライブ]:\
[インストーラ格納フォルダ]
\DG2INST.exe

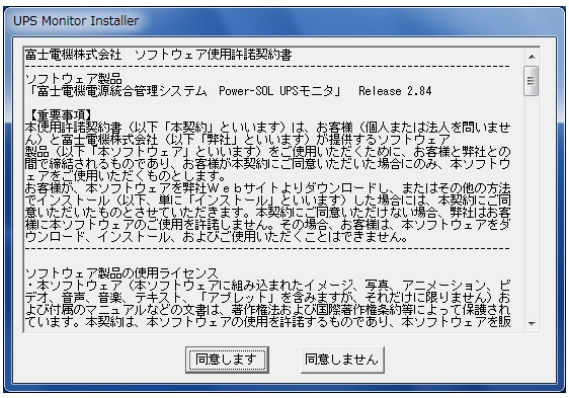
「OK」ボタンを選択します。

⑤「Power-SOL UPS モニタインストーラ」画面が表示されます。

この画面は数秒後に「使用許諾契約書」画面に切り替わります。

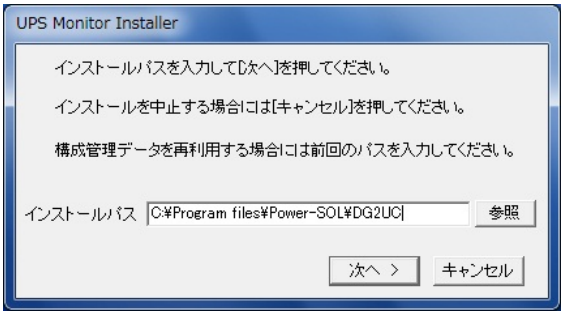
⑥「使用許諾契約書」画面が表示されます。

「ソフトウェア使用許諾契約概要」の内容をご確認後「同意します」ボタンを選択します。



⑦「インストールパス入力」画面が表示されます。

表示されている内容で良ければ「次へ >」ボタンを選択します。
(以降は「次へ」と省略します。)



新規の場合または再利用可能な構成管理データファイルがない場合は、⑩に進んでください。
再利用可能な構成管理データがある場合は、⑨に進んでください。

インストールパスを変更する場合は、「参照」ボタンを選択します。
(インストールパスは、デフォルトの設定を推奨します。)

⑧「フォルダの参照」画面が表示されます。

インストールするフォルダを選択し、「OK」ボタンを選択します。

⑦へ戻り、選択した内容のインストールパスが表示されます。

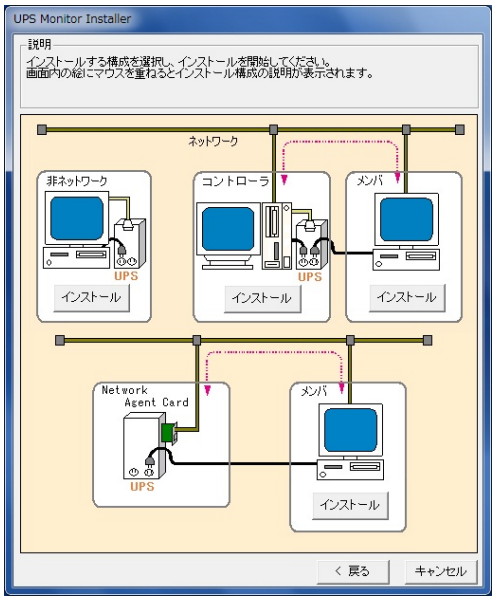
⑨インストールパスに、旧バージョン利用時に作成された再利用可能な構成管理データファイルが存在した場合、右の画面が表示されます。

「はい」を選択すると、最後に設定登録されていた構成管理を利用してインストールします。

「いいえ」を選択すると構成管理データファイルを削除し、初期状態でインストールします。

「はい」を選択した場合は、⑬に進んでください。「いいえ」を選択した場合は⑩に進んでください。
また、再利用可能な構成管理データファイルが存在しない場合は、⑨は自動的にスキップされ⑩に進みます。

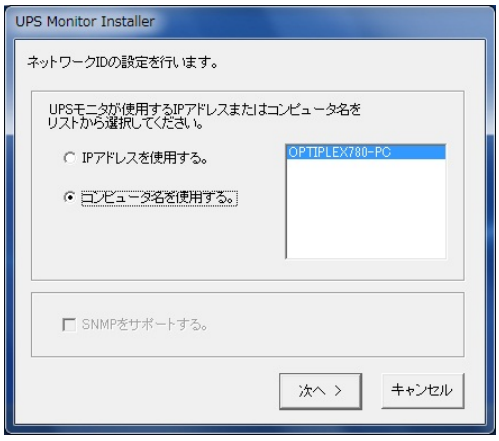
⑩「システム構成選択」画面が表示されます。



「コントローラ」の「インストール」ボタンを選択します。

システム構成の説明図(白い色の範囲内)をマウスで選択しても同様に選択できます。

⑪ネットワーク ID 設定画面が表示されます。



UPS モニタ(コントローラ)が使用するネットワーク ID を IP アドレス、または、コンピュータ名のどちらかを選択してください。

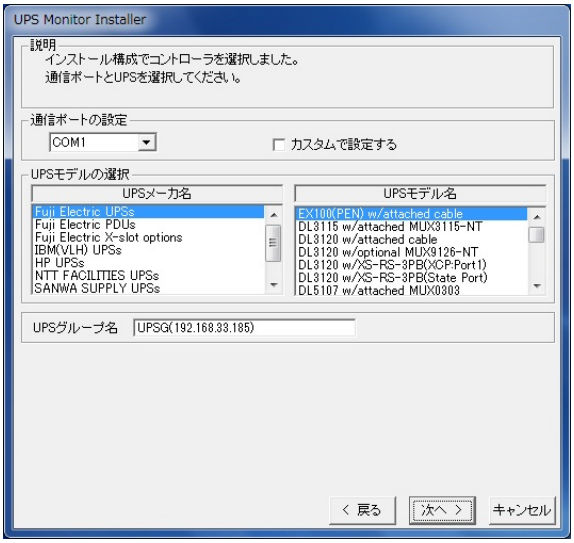
IP アドレス選択時、リスト内に複数の IP アドレスが表示されている場合は、使用する IP アドレスを選択します。

UPS モニタ(コントローラ)は使用するネットワーク ID を 1 つだけ選択する必要があります。

選択が完了したら、「次へ」ボタンを選択します。

※固定 IP アドレスのネットワーク環境の場合、設定している IP アドレスを使用することをお勧めします。

⑫「通信ポートの設定および UPS モデルの選択」画面が表示されます。

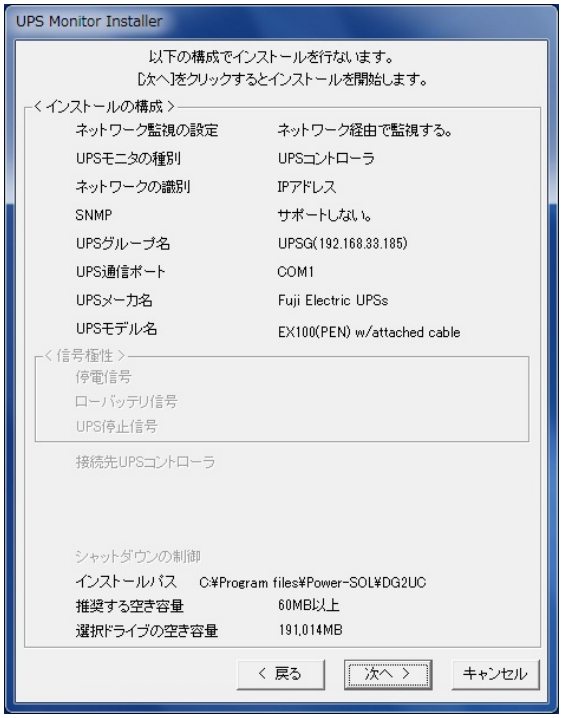


「通信ポートの選択」欄から現在 UPS が接続されているシリアルポートを選択します。

「UPS モデル名」欄から接続されている UPS のモデル名を選択します。

「次へ」ボタンを選択します。

⑭「設定内容確認」画面が表示されます。



「次へ」ボタンを選択します。

⑮インストール処理が開始され、右の画面が表示されます。

⑯インストールが終了すると、右の画面が表示されます。

同時にタスクトレイに アイコンが表示され、UPS モニタ(コントローラ)が自動的に起動します。

「OK」ボタンを選択します。(「OK」ボタンを選択しなくても右の画面は 3 秒後に自動的に消えます。)

以上で、UPS モニタ(コントローラ)モジュールのインストールは完了です。

※インストール編「インストール後の動作確認」を実行してから運用を開始してください。

UPSモニタ(メンバ)のインストール

①UPS モニタ(コントローラ)がインストールされているコンピュータまたは Network Agent Card が正常に動作している事を確認します。

②コンピュータの電源を ON にして OS を起動し、ログオンします。
(ログオンダイアログボックスが表示されない場合には必要ありません。)
Administrator か同等の権利を持ったアカウントでログオンしてください。

③CD-R または、ダウンロードした自己解凍書庫を解凍した場合は、自動的にインストーラが起動しますので、⑤に進んでください。解凍したフォルダから実行する場合は、Windows の「スタート」ボタンを選択して「ファイル名を指定して実行…」を選択します。
(Windows Vista/Server 2008/Windows 7 の場合、「スタート」－「全てのプログラム」－「アクセサリ」－「ファイル名を指定して実行」を選択します。)

④「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。

「名前」の指定を以下の様にします。
[インストーラ格納ドライブ]:\
[インストーラ格納フォルダ]
\DG2INST.exe

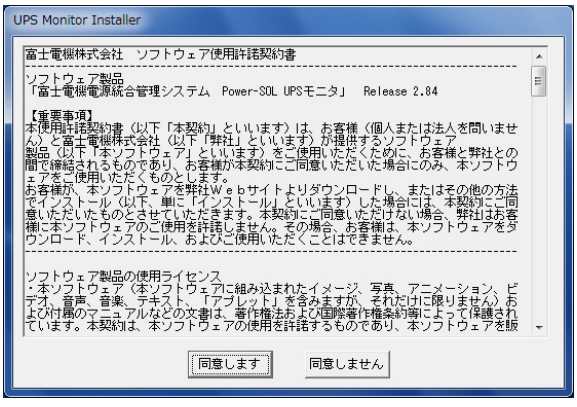
「OK」ボタンを選択します。

⑤「Power-SOL UPS モニタインストーラ」画面が表示されます。

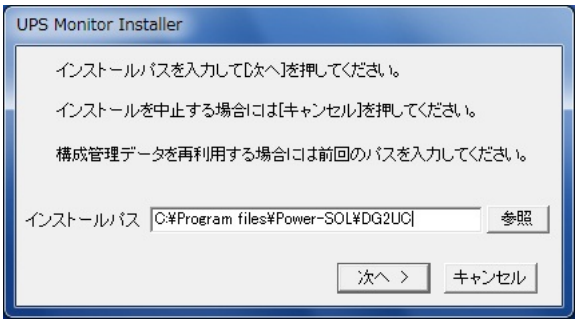
この画面は数秒後に「使用許諾契約書」画面に切り替わります。

⑥「使用許諾契約書」画面が表示されます。

「ソフトウェア使用許諾契約概要」の内容をご確認後「同意します」ボタンを選択します。



⑦「インストールパス入力」画面が表示されます。



表示されている内容で良ければ「次へ >」ボタンを選択します。
(以降は「次へ」と省略します。)

表示されている内容を変更しない場合は、⑩に進んでください。

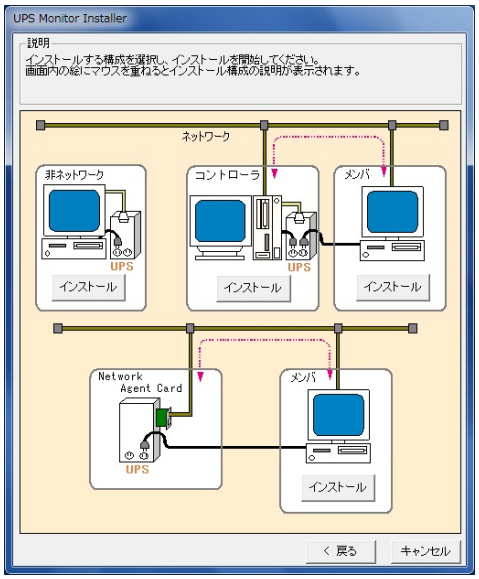
インストールパスを変更する場合は、「参照」ボタンを選択します。
(インストールパスは、デフォルトの設定を推奨します。)

⑧「フォルダの参照」画面が表示されます。

インストールするフォルダを選択し、「OK」ボタンを選択します。

⑦へ戻り、選択した内容のインストールパスが表示されます。

⑩「システム構成選択」画面が表示されます。

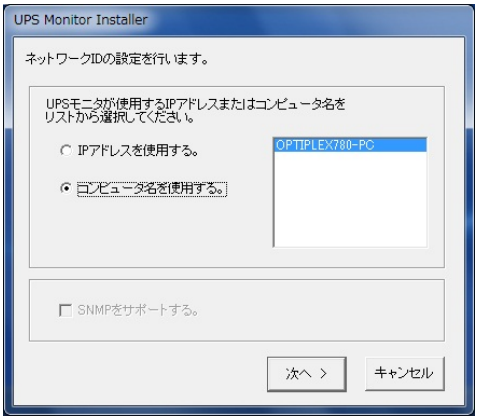


「メンバ」の「インストール」ボタンを選択します。

Network Agent Card と接続する場合にも「メンバ」を選択します。

システム構成の説明図(白い色の範囲内)をマウスで選択しても同様に選択できます。

⑪ネットワーク ID 設定画面が表示されます。



UPS モニタ(メンバ)が使用するネットワーク ID を IP アドレス、または、コンピュータ名のどちらかから選択してください。

IP アドレス選択時、リスト内に複数の IP アドレスが表示されている場合は、使用する IP アドレスを選択します。

UPS モニタ(メンバ)は使用するネットワーク ID を 1 つだけ選択する必要があります。

選択が完了したら、「次へ」ボタンを選択します。

※固定 IP アドレスのネットワーク環境の場合、設定している IP アドレスを使用することをお勧めします。

⑬「UPS コントローラ情報およびシャットダウン制御情報設定」画面が表示されます。

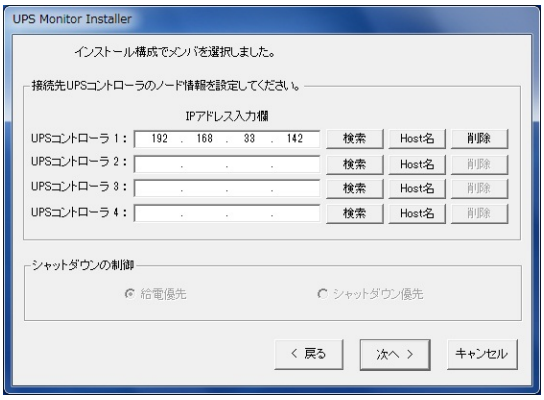
UPS モニタ(コントローラ)または、Network Agent Card のノード情報を設定します。また、必要に応じて、シャットダウンの制御方法を設定します。

ノード情報の設定は次の 3 つの設定方法から、任意の方法を選択できます。

(1) UPS モニタ(コントローラ)または Network Agent Card の IP アドレスを設定する。
(2) UPS モニタ(コントローラ)または Network Agent Card を検索し、設定する。
(3) UPS モニタ(コントローラ)のコンピュータ名(ホスト名)を設定する。

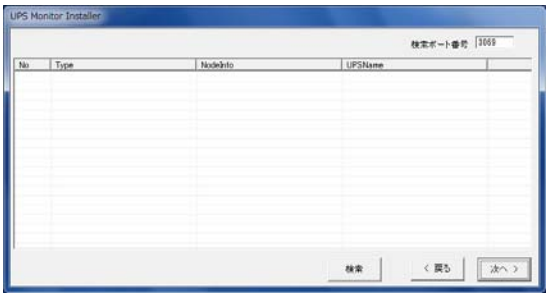
それぞれの設定方法を以降で説明します。

(1) UPS モニタ(コントローラ)または Network Agent Card の IP アドレスを設定する



UPS モニタ(コントローラ)または Network Agent Card の IP アドレスを直接設定する場合は、UPS コントローラ 1～4 いずれかの IP アドレス入力欄に直接 IP アドレスの値を入力します。

(2) UPS モニタ(コントローラ)または Network Agent Card を検索し、設定する



UPS モニタ(コントローラ)または Network Agent Card を検索して設定を行う場合は、UPS コントローラ 1～4 いずれかの「検索」ボタンを選択します。選択すると検索画面が表示されます。

検索画面で検索を行うポート番号を設定し、「検索」ボタンを選択すると、UPS モニタ(コントローラ)および Network Agent Card の検索を開始します。

検索が完了すると、検索された UPS モニタ(コントローラ)および Network Agent Card のリストが表示されます。

任意のノード情報を選択し、「次へ」ボタンを選択します。

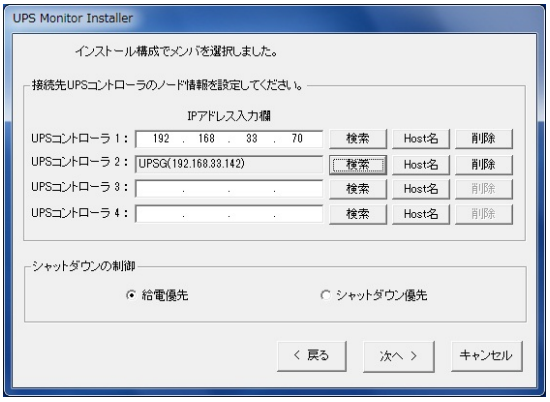
対象となる UPS モニタ(コントローラ)および Network Agent Card が検索されなかった場合、検索ポート番号を変更し、再検索を行うか、「戻る」ボタンで「UPS コントローラ情報およびシャットダウン制御情報設定」画面に戻り、IP アドレス設定またはホスト名設定を行ってください。

※検索対象のネットワークはサブネット内に限定されます。サブネットを越える検索は行えません。

(3) UPS モニタ(コントローラ)のコンピュータ名(ホスト名)を設定する

UPS モニタ(コントローラ)または Network Agent Card をコンピュータ名またはホスト名で設定を行う場合は、UPS コントローラ 1～4 いずれかの「Host 名」ボタンを選択します。選択するとホスト名入力画面が表示されます。
任意のホスト名を入力し、「次へ」ボタンを選択します。
他の設定方法にする場合は、「戻る」ボタンを選択し、「UPS コントローラ情報およびシャットダウン制御情報設定」画面に戻ります。

UPS モニタ(コントローラ)または Network Agent Card のノード情報設定後、設定内容を削除したい場合、対象の UPS コントローラ 1～4 の右にある「削除」ボタンを選択してください。
また、変更する場合は削除の操作を行った後、任意の方法で再度設定を行ってください。



また、UPS モニタ(メンバ)のマルチコントローラ機能を使用する場合は、UPS モニタ(コントローラ)または、Network Agent Card を 2 つ以上(最大 4 つ)設定します。
2 つ以上設定した場合はシャットダウン制御の選択をしてください。(デフォルトは給電優先です)

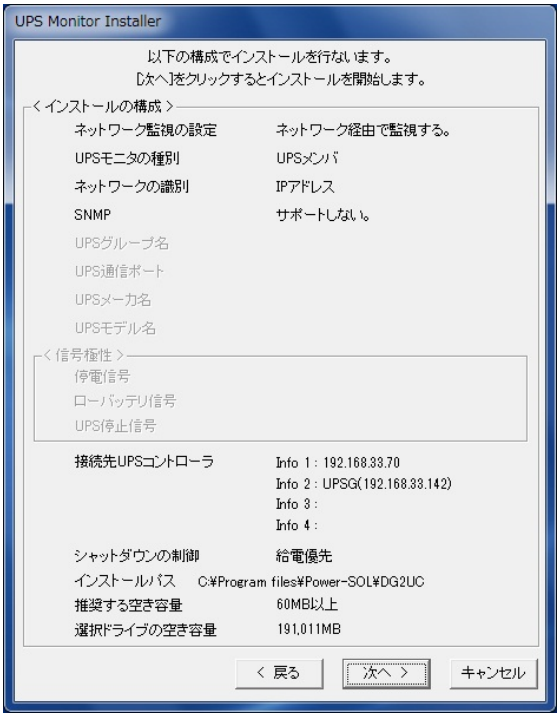
UPS モニタ(メンバ)のマルチコントローラ機能については、**機能/概要編「UPS モニタ(メンバ)のマルチコントローラ機能」**で確認してください。
(UPS モニタ(メンバ)のマルチコントローラ機能の設定はインストール後にも行えます)

設定が完了したら、「次へ」ボタンを選択します。

注意事項
※マルチコントローラ機能を使用する場合、UPS コントローラは下記のバージョンを使用してください。
Network Agent Card ：ONLINE SOFTWARE のバージョン 4.10 以上
UPS モニタ(コントローラ) ：UPS モニタ For Windows Ver 2.40 以上
：UPS モニタ For Linux Ver 1.10 以上

⑭「設定内容確認」画面が表示されます。

「次へ」ボタンを選択します。



⑮インストール処理が開始され、右の画面が表示されます。

⑯インストールが終了すると、右の画面が表示されます。

同時にタスクトレイに アイコンが表示され、UPS モニタ(メンバ)が自動的に起動します。

「OK」ボタンを選択します。(「OK」ボタンを選択しなくても右の画面は 3 秒後に自動的に消えます。)

以上で、UPS モニタ(メンバ)モジュールのインストールは完了です。

※インストール編「インストール後の動作確認」を実行してから運用を開始してください。

UPSモニタ(非ネットワーク)のインストール

①**インストール編「コンピュータと UPS の接続」**の手順通りにコンピュータと UPS が接続されている事を確認し、UPS の電源を ON にします。

②コンピュータの電源を ON にして OS を起動し、ログオンします。
(ログオンダイアログボックスが表示されない場合には必要ありません。)
Administrator か同等の権利を持ったアカウントでログオンしてください。
プラグアンドプレイ対応 UPS により新しいハードウェアの検出が行なわれた場合については、
付録編「付録 A トラブルシューティング」を参照してください。

③CD-R または、ダウンロードした自己解凍書庫を解凍した場合は、自動的にインストーラが起動しますので、⑤に進んでください。解凍したフォルダから実行する場合は、Windows の「スタート」ボタンを選択して「ファイル名を指定して実行…」を選択します。(Windows Vista/Server 2008/Windows 7 の場合、「スタート」－「全てのプログラム」－「アクセサリ」－「ファイル名を指定して実行」を選択します。)

④「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。

「名前」の指定を以下の様にします。
[インストーラ格納ドライブ]:\
[インストーラ格納フォルダ]
\DG2INST.exe

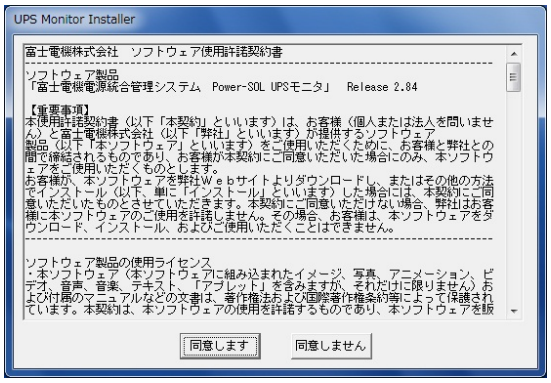
「OK」ボタンを選択します。

⑤「Power-SOL UPS モニタインストーラ」画面が表示されます。

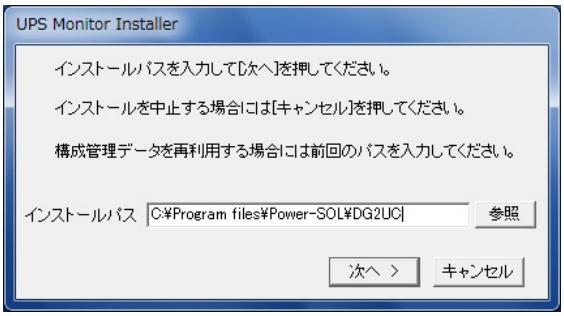
この画面は数秒後に「使用許諾契約書」画面に切り替わります。

⑥「使用許諾契約書」画面が表示されます。

「ソフトウェア使用許諾契約概要」の内容をご確認後「同意します」ボタンを選択します。



⑦「インストールパス入力」画面が表示されます。

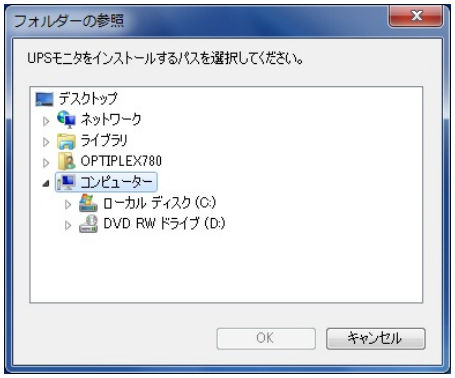


表示されている内容で良ければ「次へ >」ボタンを選択します。
(以降は「次へ」と省略します。)

表示されている内容を変更しない場合は、⑩に進んでください。

インストールパスを変更する場合は、「参照」ボタンを選択します。
(インストールパスは、デフォルトの設定を推奨します。)

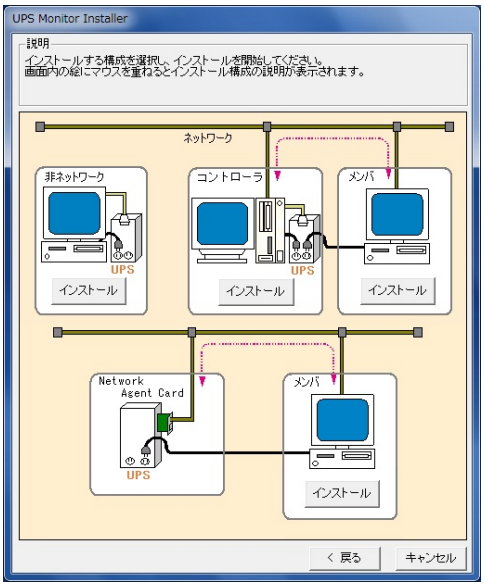
⑧「フォルダの参照」画面が表示されます。



インストールするフォルダを選択し、「OK」ボタンを選択します。

⑦へ戻り、選択した内容のインストールパスが表示されます。

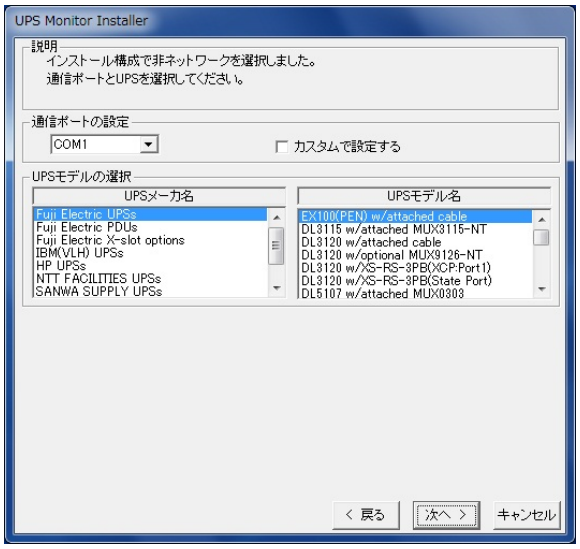
⑩「システム構成選択」画面が表示されます。



「非ネットワーク」の「インストール」ボタンを選択します。

システム構成の説明図(白い色の範囲内)をマウスで選択しても同様に選択できます。

⑫「通信ポートの設定および UPS モデルの選択」画面が表示されます。

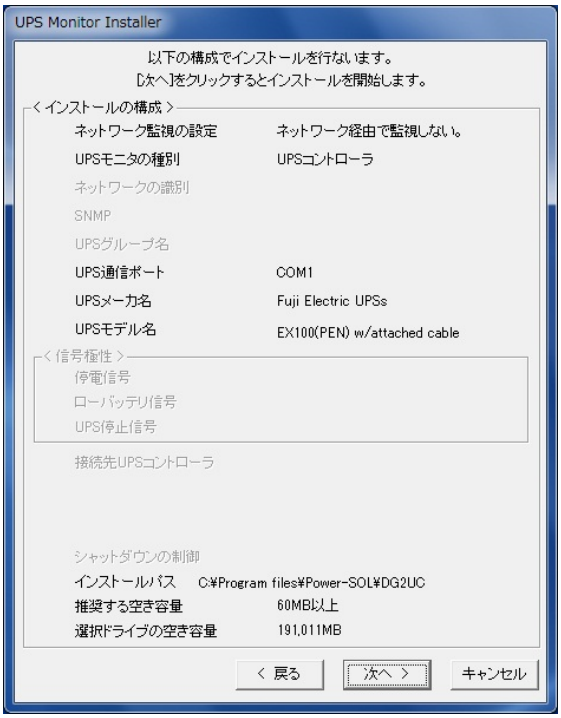


「通信ポートの選択」欄から現在 UPS が接続されているシリアルポートを選択します。

「UPS モデル名」欄から接続されている UPS のモデル名を選択します。

「次へ」ボタンを選択します。

⑭「設定内容確認」画面が表示されます。



「次へ」ボタンを選択します。

⑮インストール処理が開始され、右の画面が表示されます。

⑯インストールが終了すると、右の画面が表示されます。

同時にタスクトレイに アイコンが表示され、UPS モニタ(非ネットワーク)が自動的に起動します。

「OK」ボタンを選択します。(「OK」ボタンを選択しなくても右の画面は 3 秒後に自動的に消えます。)

以上で、UPS モニタ(非ネットワーク)モジュールのインストールは完了です。

※インストール編「インストール後の動作確認」を実行してから運用を開始してください。

インストールの中止

⑰インストール時に表示される画面の中で「キャンセル」ボタンを選択すると、右の画面が表示されます。

「はい」を選択するとインストールを中止します。

「いいえ」を選択するとキャンセルを取り消し、インストールを継続します。

UPSモニタを接点方式インタフェースUPSで使用する場合

■準備するもの

・使用する UPS 専用の Windows NT UPS サービス用通信ケーブル

①コンピュータと UPS を接続します。
通信ケーブルは、Windows NT UPS サービス用通信ケーブルを使用します。
UPS とコンピュータの接続方法は、使用する UPS の取扱説明書を参照してください。

②**インストール編「UPS モニタのインストール」**にそって、「コントローラ」または「非ネットワーク」モジュールのインストールを開始します。
(UPS ドライバは使用できませんので、インストールする必要はありません)

③「通信ポートの設定および UPS モデルの選択」画面の所では「UPS モデルの選択」を、次のように選択します。

Generic UPSs → Generic Dry Contact

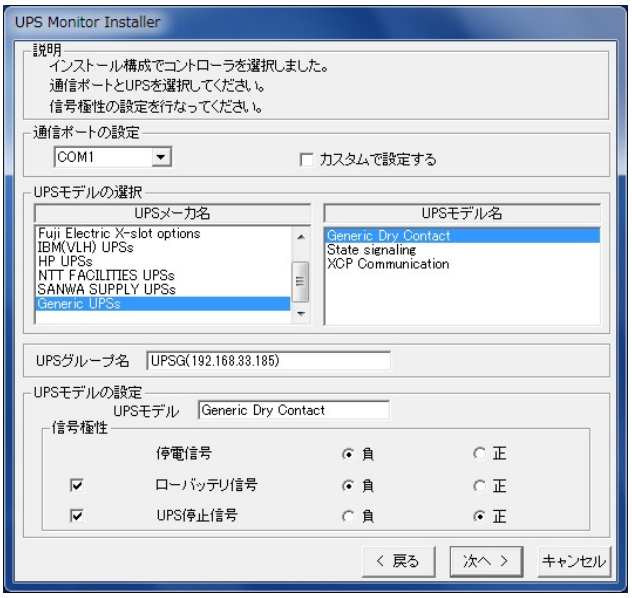
「UPS モデルの設定」欄が表示されます。

「UPS モデル」に、UPS の名称を入力してください。

信号極性の設定では、「停電信号」「ローバッテリ信号」「UPS 停止信号」を、それぞれ Windows NT の「電源障害信号」「バッテリ容量低下信号」「リモート無停電電源シャットダウン」に対比させて設定してください。

信号極性の設定値に関しては、ご使用になる UPS の取扱説明書、またはケーブルの取扱説明書を参照してください。

「次へ」ボタンを選択します。



④**インストール編「UPS モニタのインストール」**の⑭から始まります。手順にそってインストールを続行してください。

注意事項

※「UPS モデルの設定(信号極性設定)」ができるのはインストール時のみですので、間違った設定でインストールした場合は、UPS モニタをアンインストールした後、再インストールしてください。

※**インストール編「インストール後の動作確認」**を実行してから運用を開始してください。

インストール後の動作確認

インストール後に、以下の手順で UPS と UPS モニタの動作確認を行ってから実運用に移行してください。

①コンピュータの電源が OFF になっている事を確認し、UPS の電源を OFF にします。

②コンピュータの電源プラグを UPS の AC 出力コンセントから抜き取り、商用電源コンセントに差し替えます。

③UPS の電源を ON にした後、コンピュータの電源を ON にします。

④OS にログオンし、UPS モニタアイコンがタスクトレイに表示される事を確認します。

⑤UPS の電源を商用電源コンセントから引き抜き、疑似停電状態にします。

⑥タスクトレイにある UPS モニタアイコンが黄色になっていることを確認したら、UPS モニタアイコンを選択します。

⑦「UPS モニタ」画面が表示され、電源障害発生のメッセージと、シャットダウンまでのカウントダウン時間が表示される事を確認します。

⑧カウントダウンが終わると、OS のシャットダウンが開始されます。
停電発生から OS シャットダウンが開始されるまでの時間が、インストール時に設定した「電源障害カウントダウン時間」と同じ事を確認します。

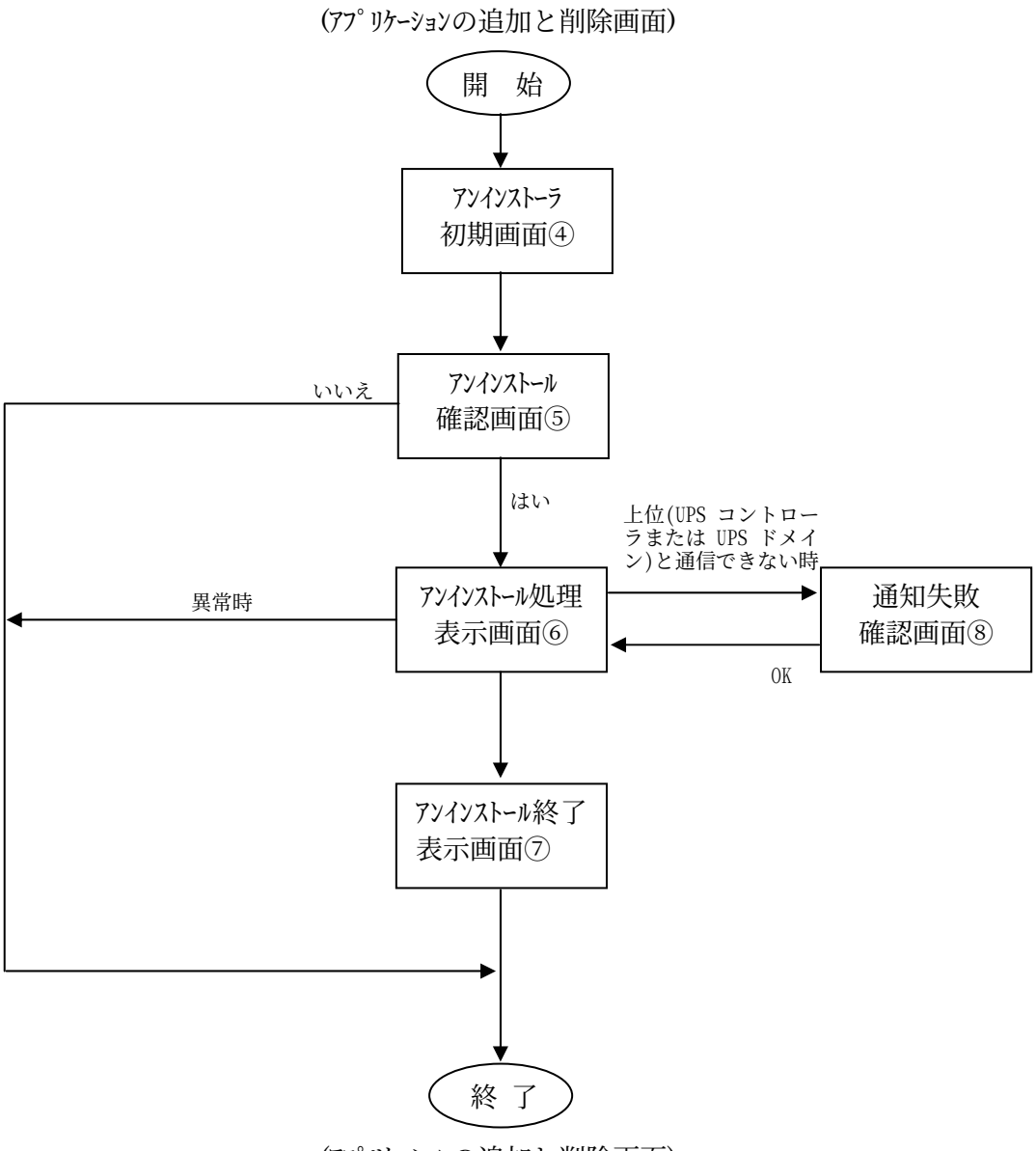
⑨OS のシャットダウンが終わると、UPS が停止します。
OS シャットダウンが開始されてから UPS が停止するまでの時間が、インストール時に設定した「システムをダウンするまでに必要な時間」と同じ事を確認します。
またこの時、OS がシャットダウンを完了する前に UPS が停止していない事を確認します。もし UPS が先に停止している場合は、**操作編「シャットダウンタイミングの設定**」にそって、「システムをダウンするまでに必要な時間」の値を増やしてください。

⑩動作確認で問題がなければ、コンピュータの電源プラグを UPS の AC 出力コンセントに接続します。

注意事項
※⑨において、接点方式インタフェースの UPS では、UPS が停止しません。
※UPS モニタ(メンバ)のマルチコントローラ機能を使用している場合は、**概要/運用編「シャットダウン/リブート動作」**の「マルチコントローラ機能を使用した場合」をよく読み、動作を確認してください。

UPSモニタのアンインストール

UPS モニタのアンインストールは下図の流れに従い、操作します。



①コンピュータの電源を ON にして OS を起動し、ログオンします。
(ログオンダイアログボックスが表示されない場合には必要ありません。)
Administrator か同等の権利を持ったアカウントでログオンしてください。

②「コントロールパネル」を開きます。

Windows XP/Server 2003 の場合は「プログラムの追加と削除」アイコンを選択します。

Windows NT/2000 の場合は「アプリケーションの追加と削除」アイコンを選択します。

Windows Vista/Server 2008 の場合は「プログラムと機能」アイコンを選択します。

Windows 7 の場合は「プログラムのアンインストール」アイコンを選択します。
(右図は Windows 7 の場合の例)

③一覧の中から「Power-SOL UPS Monitor」を選択します。

Windows NT の場合は「追加と削除」を選択します。

Windows 2000/XP/Server 2003 の場合は「変更/削除」を選択します。

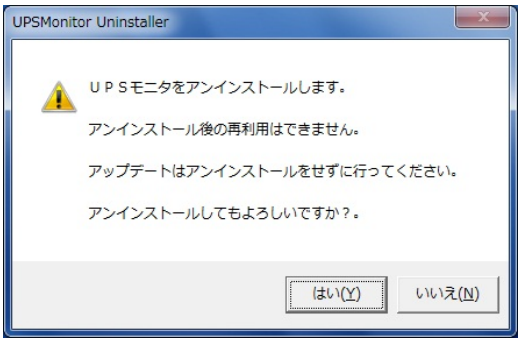
Windows Vista/Server 2008/Windows 7 の場合は「アンインストールと変更」を選択します。
(右図は Windows 7 の場合の例)

④「Power-SOL UPS モニタアンインストーラ」画面が表示されます。

数秒後に「アンインストール確認」メッセージボックスが表示されます。

⑤アンインストール確認のメッセージボックスが表示されます。

「はい」ボタンを選択します。

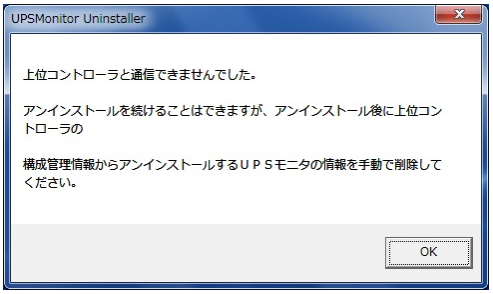


⑥右の画面が表示され、アンインストールが開始されます。

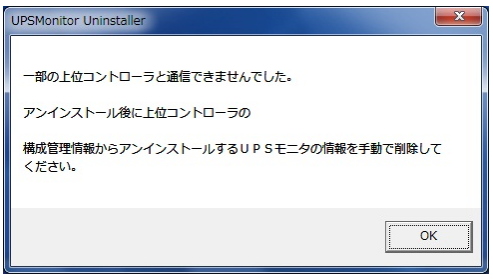
注意事項

※上位(UPS モニタ(コントローラ)または Network Agent Card、UPS ドメイン)と通信できない時

⑧アンインストール処理表示画面途中でアンインストーラが上位コントローラ(メンバの時は、UPS モニタ(コントローラ)、Network Agent Card または UPS モニタ(コントローラ)の時は、UPS ドメインコントローラ)と通信が出来ない時、右の画面が表示されます。



UPS モニタ(メンバ)時にマルチコントローラ機能を使用し UPS コントローラを 2 台以上設定している時に UPS モニタ(コントローラ)または Network Agent Card と通信が出来ない時は右の画面が表示されます。



「OK」ボタンを選択します。

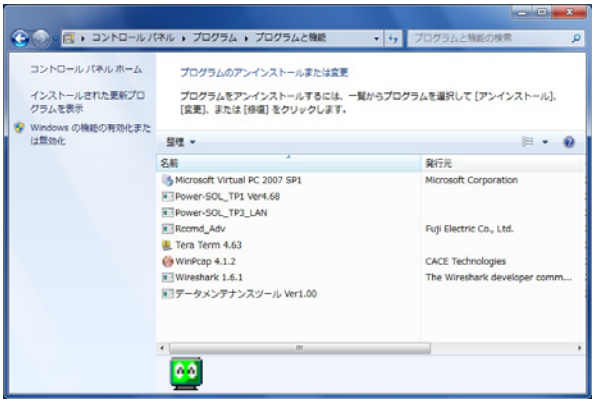
⑦アンインストールが終了すると、右の画面が表示されます。

「OK」ボタンを選択します。
(3 秒後には消えます)

⑨「アプリケーションの追加と削除」画面に戻ります。

Windows Vista/Server 2008/Windows 7 の場合は「プログラムと機能」画面に戻ります。

(右図は Windows 7 の場合の例)



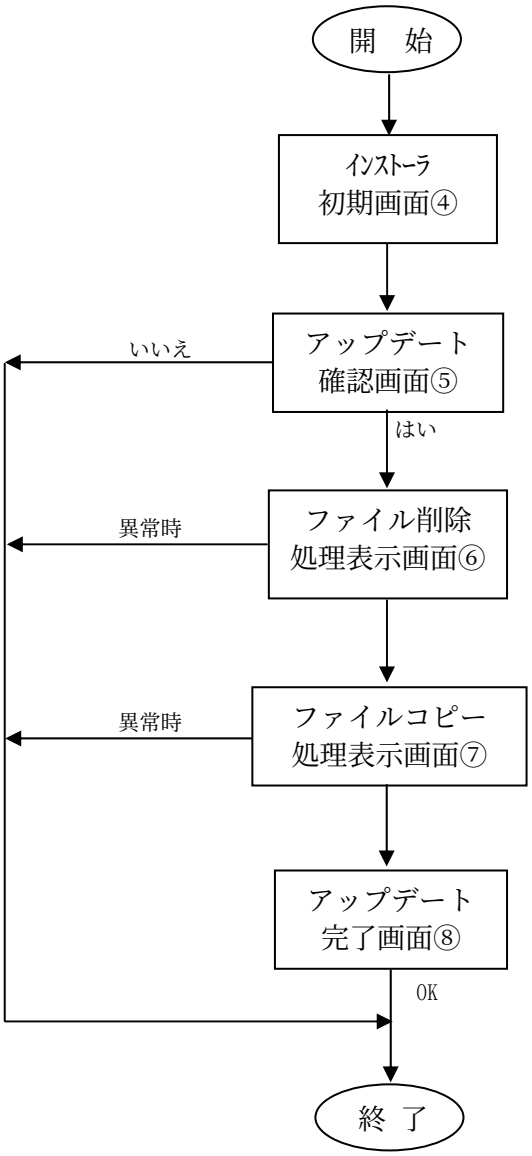
以上で、UPS モニタのアンインストールは完了です。

注意事項

※UPS モニタのアンインストールが完了しても一部のファイルは UPS モニタのインストールしたフォルダに残ります。
全てのファイルを削除する場合は、UPS モニタのアンインストール完了後、UPS モニタのインストールしたフォルダを削除してください。

UPSモニタのアップデート

UPS モニタの旧バージョンをご利用中の場合には、新バージョンへのアップデートが可能です。
新バージョンへのアップデートは下図の流れに従い、操作します。



①Administrator か同等の権利を持ったアカウントでログオンし、UPS モニタが起動している状態にします。
(アンインストールしておく必要はありません。)
②CD-R または、ダウンロードした自己解凍書庫を解凍した場合は、自動的にアップデート機能が起動しますので、④に進んでください。解凍したフォルダから実行する場合は、Windows の「スタート」ボタンを選択して「ファイル名を指定して実行…」を選択します。
(Windows Vista/Server 2008/Windows 7 の場合、「スタート」－「全てのプログラム」－「アクセサリ」－「ファイル名を指定して実行」を選択します。)

③「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。

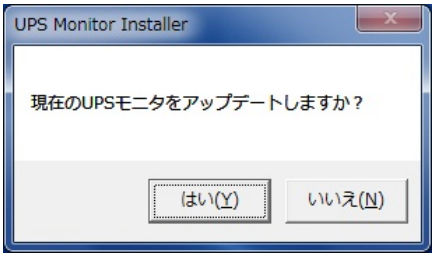
「名前」の指定を以下の様にします。
[インストーラ格納ドライブ]:\
[インストーラ格納フォルダ]
\DG2INST.exe

「OK」ボタンを選択します。

④「Power-SOL UPS モニタインストーラ」画面が表示されます。

⑤アップデートの確認画面が表示されます。

「はい」ボタンを選択します。



⑥ファイルの削除処理が開始されます。

⑦ファイルの削除が終了すると、新しいファイルのコピーが開始されます。

⑧アップデートが終了すると、アップデートの完了画面が表示されます。

同時にタスクトレイに アイコンが表示され、UPS モニタが自動的に再起動します。

「OK」ボタンを選択します。(「OK」ボタンを選択しなくても右の画面は 3 秒後に自動的に消えます。)

以上で、UPS モニタのアップデートは完了です。

注意事項
※**操作編「ヘルプメニューの操作」**のバージョン情報でアップデートされている事を確認してから運用してください。